

令和7年度

数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）

【MDASH – Advanced Literacy】申請様式の記載要領

※MDASH…Approved Program for Mathematics, Data science, and A I Smart Higher Education

★先に「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度」簡易手引きを確認

< 1. はじめに >

【申請への留意事項】

- 応用基礎レベルの「認定教育プログラム」は大学等単位又は学部・学科単位の申請となります。ただし、同学部・学科から複数のプログラムの申請はできません。
- 「大学等全体のプログラム」は各大学等における数理・データサイエンス・A I 教育の応用基礎レベルを実施する中心的な役割を果たすプログラムを1つ申請してください。
- 法人内に設置機関（学校種）が複数ある場合は、設置機関（学校種）ごとに申請してください。
- 通信教育課程（部）を別に申請する必要はありません。ただし、通信教育課程（部）で実施する「認定教育プログラム」が別の場合は別に申請してください。
- 「認定教育プログラム」は「数理・データサイエンス・A I 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の創設について」（2021年3月 数理・データサイエンス・A I 教育プログラム 認定制度検討会議）に記載のある応用基礎コアの「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」、「Ⅱ. A I・データサイエンス基礎」、「Ⅲ. A I・データサイエンス実践」（以下「審査項目」という）の内容を含む授業科目で構成する必要があります。
- 令和7年度認定においては、改訂前である「数理・データサイエンス・A I（応用基礎レベル）モデルカリキュラム」（2021年3月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム）（以下「改訂前モデルカリキュラム（応用基礎レベル）」という。）または改訂した「数理・データサイエンス・A I（応用基礎レベル）モデルカリキュラム」（2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム）（以下「改訂版モデルカリキュラム（応用基礎レベル）」という。）に準拠した教育プログラムを認定することとします。
- 本要領や申請書等において「学部・学科」となっている記載について、「学部」は大学の学部、「学科」は学部を持たない短期大学や高等専門学校の学科が該当します。
- 「大学等全体のプログラム」で申請する場合、複数の学部・学科を設置している場合は、2つ以上の学部・学科（詳細は以下の①②を参照）の学生が履修している必要があります。
 - ① 人文・社会科学分野等の学部・学科を設置している場合
人文・社会科学分野等の学部・学科を含めて、2つ以上の学部・学科の学生が履修している必要があります。
 - ② 1つの学部のみを設置している大学、1つの学科のみを設置している短期大学、高等専門学校の場合
2つ以上の専門分野等の学生が履修している必要があります。
- 「学部・学科単位のプログラム」で申請する場合、人文・社会科学分野等を含む複数

の専門分野の学生の履修は必要ありません。また、全学部・学科に開講している必要もありません。

- 「認定教育プログラム」を構成する授業科目は、正規の教育課程に位置付けられている卒業単位として認められる授業科目（卒業要件とされる科目）である必要があります（※）。（入学生ガイダンス、大学院の授業科目や公開講座、別科、専攻科、寄付講座の授業科目は申請できません。）

（※）「卒業要件とされない自由科目」を履修しなければ、認定要件が満たされないプログラムは対象となりません。ただし認定要件が、「卒業要件とされる科目」の履修によって満たされた上で、「卒業要件とされない自由科目」を含め構成されるプログラムの場合は、対象となります。

- 「認定教育プログラム」を構成する授業科目の科目数や単位数、教養科目・専門科目への位置付けについて、定めはありません。
- リテラシーレベルの「認定教育プログラム」を構成する授業科目に応用基礎レベルの授業科目を含む場合、応用基礎レベルの「認定教育プログラム」の授業科目と重複してもかまいません。
- 応用基礎レベルの申請にあたり、リテラシーレベルの認定取得は必須ではありませんが、リテラシーレベルの認定を受けない予定で応用基礎レベルに申請する場合、大学等が取り組む教育体系全体における当該教育プログラムの位置づけや妥当性を明確にし、リテラシーレベル相当の教育内容との関係性を明確にするため、応用基礎レベルの必要書類のみならず、リテラシーレベルの様式1、構成する授業科目の内容が分かる資料（シラバス等）の提出が必要です。なお、リテラシーレベルの認定要件を満たす必要はありませんが、要件を満たす場合、積極的に申請を検討してください。
- 「認定教育プログラム」の申請をせずに「認定教育プログラム＋（プラス）」に申請はできません。ただし、応用基礎レベルの認定を既に受けている「認定教育プログラム」の場合は、「認定教育プログラム＋（プラス）」のみの申請が可能となります。

【申請方法等】

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）申請要領をご確認ください。

< 2. 各様式 >

【様式1】プログラムを構成する授業科目について

※ 申請の主体である大学等名（正式名称）及び申請する教育プログラム名を記載してください。（大学等名については以降の様式に転記されます）

※「学部・学科単位のプログラム」を申請する場合、教育プログラム名において、どの学部・学科のプログラムなのかがわかるようにしてください。

例：◆◆大学データサイエンスプログラム（〇〇学部） 等

① 申請単位

- ・「大学等全体のプログラム」又は「学部・学科単位のプログラム」のどちらかをプルダウンで選択してください。
- ・複数の「学部・学科単位のプログラム」を申請する場合、学部・学科ごとに申請書類を作成する必要があります。

② 既認定プログラムとの関係

＜①で「大学等全体のプログラム」を選択し、かつ、同じ大学等内で前年度までに認定をうけた「学部・学科等」単位のプログラムがある場合＞

- ・既に認定を受けている「学部・学科単位プログラム」を大学等全体に拡大（「学部・学科単位のプログラム」から「大学等単位のプログラム」に移行）するもの
→「大学等単位へ拡大」を選択してください。
- ・既に認定を受けている「学部・学科単位プログラム」は当該学部・学科のみで継続し、新たに大学等全体を対象としたプログラムの申請をするもの
→「新規のプログラムとして申請」を選択してください。

注意：同じ大学等内で、既に複数の「学部・学科単位のプログラム」の認定を受けており、各プログラムで上記の取扱いが異なる場合は、文部科学省高等教育局専門教育課情報教育推進第一係まで必ず連絡してください。

＜①で「大学等全体のプログラム」を選択し、かつ、同じ大学等内で前年度までに認定をうけた「学部・学科等」単位のプログラムがない場合＞

- ・この項目は記載不要です。

＜①で「学部・学科単位のプログラム」を選択した場合＞

- ・この項目は記載不要です。（セルが自動で灰色になります）

③ 教育プログラムの修了要件

＜①で「大学等全体のプログラム」を選択している場合＞

- ・学部・学科によって、修了要件が相違する場合は「学部・学科によって、修了要件は相違する」を選択してください。学部・学科によって修了要件の相違はなく、全学部・学科に同一の修了要件を設定している場合は、「学部・学科によって、認定要件は相違しない」を選択してください。

＜①で「学部・学科単位のプログラム」を選択している場合＞

- ・この項目は記載不要です。

④ 対象となる学部・学科名称

＜①で「大学等全体のプログラム」を選択し、かつ、③で「学部・学科によって修了要件は相違する」を選択している場合＞

- ・⑤に記載する修了要件の対象となる学部・学科の名称を記載してください。
- ・様式1は設定している修了要件ごとに作成してください。
- ・修了要件ごとにシートを分け、枝番号を付してください。
- ・複数の学部・学科で同じ修了要件を設定している場合は、同じシートに記載してください。

注意：枝番号は、シート名・様式右上の＜様式1＞を＜様式1－〇＞に必ず修正してください。

＜①で「大学等全体のプログラム」を選択し、かつ、③で「学部・学科によって修了要件は相違しない」を選択している場合＞

- ・この項目は記載不要です。

＜①で「学部・学科単位のプログラム」を選択している場合＞

- ・⑤に記載する修了要件の対象となる学部・学科の名称を記載してください。
- ・記載できる学部・学科は1つです。

⑤ 修了要件

- ・「認定教育プログラム」の修了要件を具体的に記載してください。
- ・審査項目のそれぞれの区分の授業科目を履修することを確認して記載してください。
- ・記載に当たって、どの科目を履修すれば修了要件を満たすのか分かりやすくなるよう留意してください。

必要最低科目数・単位数

- ・本プログラムの修了に必要な最低科目数及び単位数を記載してください。

履修必須の有無

- ・全学部・学科、もしくは④で記入した学部・学科等において、「認定教育プログラム」を卒業までに必ず履修するものとして実施している、又は今後履修必須とする計画があるかについて、プルダウンの中から選択して回答してください。

例1：令和6年度以降の入学生全員に履修を課している認定教育プログラム → 「令和6年度以前より、履修することが必須のプログラムとして実施」を選択

例2：令和6年度までは希望者のみが履修していたプログラムについて、令和7年度以降の入学生全員に履修させることに変更した → 申請時点では履修必須となってから1年以上の実績がないが、3年以内（令和9年度まで）に履修必須となるため、「令和8年度までに、履修必須とする計画がある」を選択

例3：A学部a学科は履修必須となっているが、A学部b学科においては履修任意となっている → 大学においては学部単位で判定するため、b学科で履修必須とする計画がなければ「令和10年度以降に履修必須とする計画、又は未定」を選択

【⑥～⑧共通：審査項目を含む授業科目】

- ・「単位数」について、当該授業科目の単位数を記載してください。

注意：シラバスの単位数と異なる事例が散見されますので、ご注意ください。

- ・「必須」について、プログラムの修了に当たり、履修が必須の科目について「○」を選択してください。

注意：教育課程上の必修科目ではない授業科目であっても、「認定教育プログラム」を修了するに当たり必ず履修しなければならない授業科目については、「必須」の欄に「○」を付けてください。

- ・以下の表は、審査項目と改訂版モデルカリキュラム（応用基礎レベル）の対応を示したものです。（なお、改訂前モデルカリキュラム（応用基礎レベル）においては、「3-5」がなく、「3-10」は「3-9」となり番号が異なります）

<表>

項目	3つの基本的要素	モデルカリキュラム対応箇所
I	データ表現とアルゴリズム： データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎（統計数理、線形代数、微分積分）」に加え、A Iを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6. 数学基礎 1-7. アルゴリズム 2-2. データ表現 2-7. プログラミング基礎
II	A I・データサイエンス基礎： A Iの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にA Iを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するA I基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1. データ駆動型社会とデータサイエンス 1-2. 分析設計 2-1. ビッグデータとデータエンジニアリング 3-1. AIの歴史と応用分野 3-2. AIと社会 3-3. 機械学習の基礎と展望 3-4. 深層学習の基礎と展望 3-5. 生成AIの基礎と展望 (NEW) 3-10. AIの構築と運用
III	A I・データサイエンス実践： 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群。応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・A I活用企画・実施・評価」から構成される。	項目I及びII AI・データサイエンス実践（演習や課題解決型学習）＜データ・AI活用企画・実践・評価＞

⑥ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

- ・改訂版モデルカリキュラム（応用基礎レベル）の「応用基礎レベル モデルカリキュラムの構成」における「1-6 数学基礎」、「1-7 アルゴリズム」、「2-2 データ表現」、「2-7 プログラミング基礎」の学習内容を含む授業科目を記載し、対応箇所の「○」を選択してください。必ず構成する授業科目で「1-6」、「1-7」、「2-2」、「2-7」の項目を網羅する必要があります。

※改訂前モデルカリキュラム（応用基礎レベル）においても同様

⑦ 応用基礎コア「Ⅱ. A I・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

- ・改訂版モデルカリキュラム（応用基礎レベル）の「応用基礎レベル モデルカリキュラムの構成」における「1-1 データ駆動型社会とデータサイエンス」、「1-2 分析設計」、「2-1 ビッグデータとデータエンジニアリング」、「3-1 AIの歴史と応用分野」、「3-2 AIと社会」、「3-3 機械学習の基礎と展望」、「3-4 深層学習の基礎と展望」、「3-5 生成AIの基礎と展望」、「3-10 AIの構築と運用」の学習内容を含む授業科目を記載し、対応箇所の「○」を選択してください。必ず構成する授業科目で「1-1」、「1-2」、「2-1」、「3-1」、「3-2」、「3-3」、「3-4」、「3-5」、「3-10」の項目を網羅する必要があります。

※改訂前モデルカリキュラム（応用基礎レベル）においては、「3-5」は要件ではなく、「3-10」は「3-9 AIの構築と運用」となります。

⑧ 応用基礎コア「Ⅲ. A I・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

- ・応用基礎コアの⑥「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」、⑦「Ⅱ. A I・データサイ

エンス基礎」に記載した科目のうち、実践の場を通じた学習体験を行っている授業科目を記載してください。

⑨ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

- ・「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の創設について」（2021年3月 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 認定制度検討会議）に記載のある選択項目を選択してください。
- ・選択項目にない授業科目は「その他」を選択してください。
- 選択項目が多岐にわたる場合は、主の項目を1つ選択してください。

⑩ プログラムを構成する授業の内容

- ・講義内容について、改訂前モデルカリキュラム（応用基礎レベル）の「応用基礎レベル モデルカリキュラムの構成」の項目毎に、授業内容に対応するキーワード（知識・スキル）、授業科目、講義回をそれぞれ記載してください。

※改訂前モデルカリキュラム（応用基礎レベル）においても同様

※スキルセットのキーワード(知識・スキル)の全てを網羅する必要はありません。

例：「1-1」の要素を授業科目「データサイエンス」の3回目の講義で対応している場合 → データサイエンス活用事例「データサイエンス」（3回目）

注意：授業内容に対応するキーワード（知識・スキル）は、モデルカリキュラムのスキルセットに記載されている文言をそのまま使用し、例に沿って記載してください。

- ・様式1の⑩（3）のⅠ及びⅡについては、応用基礎コアの「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」を指します。実践の場を通じた学習体験を行っている授業科目について、様式1の⑩（1）（2）と同様に、モデルカリキュラムに記載されている「キーワード（知識・スキル）」より、対象の授業科目に対応するものを選択し、授業内容に対応するキーワード（知識・スキル）、授業科目、講義回をそれぞれ記載してください。

※様式1の⑩（3）のⅠは、該当がある場合のみ、記入してください。

※様式1の⑩（3）のⅡは、必ず記入してください。

※様式1の⑩（3）の記載が様式1の⑩（1）及び（2）と重複することは差し支えありません。

⑪ プログラムの学修成果（学生等が身に付けられる能力等）

- ・「認定教育プログラム」の修了時に学生等が身に付けられる能力等、学修成果を記載してください。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容

※本項目は改訂前モデルカリキュラム（応用基礎レベル）を適用する場合にのみ回答する項目であり、認定要件とはなりません。

- ・令和7年度以降の実施・検討状況などを記載してください。ど
- ・計画等がない場合はその旨記載してください

【様式2】プログラムの履修者数等の実績について

① プログラム開設年度

- ・履修者の実績が必要なため、令和6年度後期以前に開講している「認定教育プログラム」でなければ申請できません。必ず、令和6年度以前の年度を記載してください。

②大学等全体の男女別学生数

- ・学校基本調査（令和6年5月1日現在）で回答している男女別の学生数を記載してください。

※大学の大学院、専攻科及び別科、短大の専攻科及び別科、高等専門学校専攻科の人数は含まないでください。

※学部・学科単位であっても、大学等全体の男女別学生数を記載してください。

③履修者・修了者の実績

○学部・学科名称

- ・大学は学部別、短期大学・高等専門学校は学科別に記載してください。

※ただし、同じ学部の中に修業年限が異なる学科がある場合は、当該学部については学科別に記載して差し支えありません。

- ・履修者がいない学部・学科等は「0」と入力してください。
- ・大学において学部が1つの場合、学科、課程別に記載し、記載が複数行になるようにしてください。また、短大・高専において学科が1つの場合、その下のコース等別に記載してください。
- ・大学において学部が1つ、かつ、その下の学科や課程等についても1つしか無い場合、記載は1行になってもかまいません。（短大・高専においても同様）

○学生数

- ・学生数は学校基本調査（令和6年5月1日現在）で回答している人数を記載してください。

○入学定員

- ・令和6年5月1日現在の入学定員を記載してください。

○収容定員

- ・令和6年5月1日現在の収容定員を記載してください。

注意：公表されている数値と異なる事例が散見されますので、注意してください。

○履修者数、修了者数

- ・履修者数、修了者数を記載してください。
- ・履修者数は、令和6年5月1日現在、大学等に在籍する学生等について、「認定教育プログラム」を履修した年度に人数を計上してください。ただし、再履修者は計上しないでください。（在籍していない者、卒業している者は計上しないでください。）
- ・複数年度にまたがる「認定教育プログラム」の場合、履修者数については、履修を開始した初年度に計上してください。
- ・年次ごとの履修者数について、①プログラムの開設年度と整合が取れるよう確認して記載してください。（例えば、プログラムの開始年度が令和4年度の場合、令和4年度、令和5年度、令和6年度の履修者を記載してください。プログラム

開始年度より前の年度に人数を計上することはできません)

- ・修了者数は、当該年度において申請プログラムの修了要件を満たした学生の人数を計上してください。

○履修者数合計、履修率、合計

- ・セルに式が入っているため、直接、数字等をセルに入力しないでください。

【様式3】教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

- ・教員数（常勤）は学校基本調査（令和6年5月1日現在）の教員数（本務者）の数を記載してください。
- ・教員数（非常勤）も同様に令和6年5月1日現在の数を記載してください。

② プログラムの授業を教えている教員数

- ・「認定教育プログラム」の授業を教えている教員の数を記載してください。

③ プログラムの運営責任者

- ・「認定教育プログラム」の運営責任者名とその役職名を記載してください。

④ プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）

- ・「認定教育プログラム」における不断の改善を図るための委員会・組織等の名称とその委員会・組織等における責任者名とその役職名を記載してください。

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

- ・プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則を記載してください。

⑥ 体制の目的

- ・④プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）において、組織または会議等の目的を記載してください。

⑦ 具体的な構成員

- ・④プログラムを改善・進化させるための体制（委員会・組織等）を構成する委員の氏名、役職・所属等を記載してください。

注意：委員の氏名の記載がない事例が散見されています。必ず記載してください。

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

- ・令和6年度実績について、様式2の合計の履修率が反映されますので、何も入力しないでください。
- ・令和7年度予定、令和8年度予定、令和9年度予定、令和10年度予定の欄には、令和6年度の履修者数・履修率の実績を踏まえた履修者数・履修率の目標値を具体的に設定し、単位を%で記載してください。
- ・収容定員（名）については、様式2の収容定員の合計の人数が反映されますので、何も入力しないでください。
- ・具体的な計画について、各年度の目標値を達成するための具体的な方策を年度ご

とに記載してください。

注意：履修者数・履修率の目標値が記載されていない事例が散見されています。必ず記載してください。

- ⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等
 - ・例えば、担当者を配置するなど、学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような特色ある体制を記載してください。
- ⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組
 - ・例えば、入学後のガイダンスの周知など、できる限り多くの学生が履修できるような各大学等の特色ある周知方法を具体的に記載してください。
- ⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制
 - ・例えば、学修サポート、学内外の資源利用やICT環境の活用など、できる限り多くの学生が履修・修得できるような各大学等の特色あるサポート体制を記載してください。
- ⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み
 - ・授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける各大学等の特色ある具体的な仕組みを記載してください。

【様式4】自己点検・評価について

- ① プログラムの自己点検・評価を行う体制（委員会・組織等）
 - ・「認定教育プログラム」における適切な視点・項目に基づいた自己点検・評価、外部評価等を定期的に実施している委員会・組織等の責任者名とその役職名を記載してください。
- ② 自己点検・評価体制における意見等
 - ・自己点検・評価の視点について、自己点検・評価体制における自己点検・評価の結果や不断の改善・進化に向けた取組を記載してください。

【様式5】数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度 プラス申請書

※ 様式5は「プラス」に申請する場合のみ、提出してください。

※ ページ数は、様式5の全体で3ページ以内としてください。

※ 適宜図表を使用するなど分かりやすくなるよう工夫をしてください。

※ 申請単位が「大学等单位」の場合は、「大学等单位」の様式を、申請単位が「学部・学科単位」の場合は、「学部・学科単位」の様式を使用してください。

○ 対象学部等：申請単位が「学部・学科単位」の場合、プラス選定に申請する学部・学科を記載してください。

○ 他大学等の規範となり、ステークホルダーから支持される先導的で独自の工夫・特色のある教育プログラムを選定します。

○例えば、以下のようなものが挙げられます。

- ・全学部等において、認定教育プログラム（応用基礎レベル）の履修を必須としている。
- ・関連学会や地域コミュニティ、産業界からのニーズを踏まえた教育プログラムである。
- ・双方向性の高いe-learningの仕組みを導入するなどの実践教育を実現しているうえ、高い学修効果を上げている。
- ・他大学等への教育プログラムの提供等により教育波及効果が得られている。
- ・海外の先端的な教育プログラム等の活用や連携に取り組んでいる。
- ・「AI戦略2019」で位置づけられた「エキスパートレベル」との間の橋渡しとなるような人材の育成に取り組んでいる。
- ・社会動向を踏まえ、新たな技術（生成AIなど）に係る教育内容・方法を授業に導入するなど、先導的で工夫・特色のある学修に取り組んでいる。

○特に、認定教育プログラム（応用基礎レベル）を履修必須（令和9年度までに履修必須とする計画があることも含む）としている「認定教育プログラム」を重視します。

① 授業内容

- ・分かりやすさ、学習意欲が高まる内容、学生の習熟度や専門性を踏まえた学習内容、学生の習熟度や専門性に応じた授業選択など、具体的に記載してください。

② 学生の学習支援

- ・学習支援システムの構築、補完的な教育の実施、インターンシップ先での実践やTAとしての指導、学修成果の可視化等の導入など、具体的に記載してください。

③ その他の取組

- ・地域連携や産業界との連携、海外の大学等との連携など、具体的に記載してください。

**数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度
申請フォームの入力事項について**

申請に当たり、以下の事項については申請フォーム（Microsoft Forms）より必ず入力してください。
入力漏れの申請は受理されませんので注意してください。

申請フォーム URL : <https://forms.office.com/r/ameZe1VMCO>

○申請機関の情報

1. 大学等の設置者

・学校教育法第2条に基づき、申請時点の設置者名を記載してください。

例：国立大学法人〇〇大学、学校法人◆◆学園 等

2. 学校名

・申請時点の学則に記載されている名称を記載してください。

例：〇〇大学、◆◆高等専門学校 等

3. 学校の所在地

・「2.」に記載した学校の本部が所在する都道府県をプルダウンで選択してください。

4. 設置形態

・「国立大学」、「公立大学」、「私立大学」、「公立短期大学」、「私立短期大学」、「高等専門学校」から選択してください。

5. 担当者氏名

・申請する教育プログラムにおける窓口となる者の氏名を記載してください。

6. 担当者所属部署（役職）

・「5.」に記載した担当者の所属部署（役職）を記載してください。

7. メールアドレス

・「5.」に記載した担当者のメールアドレスを記載してください。

※申請内容について問い合わせをする場合がありますので、可能な限りグループアドレス等、複数の担当者が確認できるアドレスを記載してください。

8. 電話番号

・「5.」に記載した担当者の連絡先を記載してください。

○リテラシーレベルについて

9. 認定・選定状況【リテラシーレベル】

・リテラシーレベルの認定・選定状況を選択してください。

10. 申請区分【リテラシーレベル】

・リテラシーレベルの申請区分を選択してください。

※リテラシーレベルを申請しない場合は、「申請なし」を選択してください。

11. プログラム名【リテラシーレベル】

・リテラシーレベルに申請する教育プログラムの名称を記載してください。

※11については、申請がない場合は空欄にしてください。

○応用基礎レベル（大学等単位）について

12. 認定・選定状況【応用基礎プログラム（大学等単位）】

- ・応用基礎レベル（大学等単位）の認定・選定状況を選択してください。

13. 申請区分【応用基礎プログラム（大学等単位）】

- ・応用基礎プログラム（大学等単位）の申請区分を選択してください。

※応用基礎プログラム（大学等単位）を申請しない場合は、「申請なし」を選択してください。

14. プログラム名【応用基礎プログラム（大学等単位）】

- ・応用基礎プログラム（大学等単位）に申請する教育プログラムの名称を記載してください。

※14について、申請がない場合は空欄にしてください。

○応用基礎プログラム（学部・学科単位）について

15. 認定・選定状況【応用基礎プログラム（学部・学科単位）】

- ・応用基礎レベル（学部・学科単位）の認定・選定状況を選択してください。

16. 申請区分【応用基礎レベル（学部・学科単位）】

- ・応用基礎プログラム（学部・学科単位）の申請区分を選択してください。

※応用基礎プログラム（学部・学科単位）を申請しない場合は、「申請なし」を選択してください。

17. 応用基礎プログラム（学部・学科単位）の申請内訳

- ・申請する教育プログラムの申請件数、対象学部等を記載してください。

例：3件（文学部、工学部、医学部）

18. 応用基礎プログラム（学部・学科単位）プラスの申請内訳

例：1件（工学部）

19. プログラム名【応用基礎レベル（学部・学科単位）】

- ・応用基礎レベル（学部・学科単位）に申請する教育プログラムの名称を記載してください。

※複数の学部・学科で申請する場合、例のように、プログラム名ごとに句点で区切って記載してください。

例：〇〇大学データサイエンスプログラム（文学部）、〇〇大学データサイエンスプログラム（工学部）、〇〇大学データサイエンスプログラム（医学部）

※17、18、19については、申請がない場合は空欄にしてください。

○プログラムの公表情報

20. ～25. 教育プログラムについて公表しているアドレス

- ・申請する教育プログラムについて公表している HP のアドレスを記載してください。

※応用基礎レベル（学部・学科単位）の教育プログラムを複数の学部・学科で申請する場合、公表アドレスが異なる場合は例のように記載してください。

例：（文学部）<https://www.〇〇〇>

（工学部）<https://www.◇◇◇>

26. 公表情報の確認

- ・公表が必要となる事項について、公表アドレスにおいて掲載されていることを確認し、チェックを入れて下さい。（公表が必要となる事項については、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要綱第2条参照）

注意：申請時において、必要事項が公表されていない事例が散見されております。必ずご確認ください。